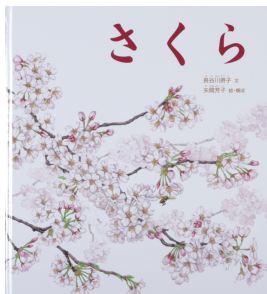


植 物



さくら (かがくのとも絵本)

長谷川摂子／文
矢間芳子／絵・構成

福音館書店 2010年 900円

1本のソメイヨシノとそこに集まる鳥や虫たちの一年を描きました。リズムカルな文と繊細でやわらかいタッチの絵が、さくらをますます魅力的にしています。



たんぽぽ (かがくのとも傑作集)

平山和子／文・絵
北村四郎／監修

福音館書店 1976年 900円

どこにでも咲いているタンポポですが、私たちは、その生態についてはあまり知りません。実物大のタンポポの根は80cm! 4ページにわたって描かれています。



雑草のくらし あき地の五年間

甲斐信枝／作
福音館書店 1985年 2300円

比叡山の麓の畑跡地を5年間に渡って観察し、雑草の暮らしをダイナミックに描きました。そこでは草どうしの勢力争いが、四季折々、年を追うごとに繰り広げられます。作者は、植物や生き物についての優れた絵本を数多く手がけています。

(参考図書)

『つくし』(かがくのとも傑作集)

甲斐信枝／作

福音館書店 1997年 900円

『たねがとぶ』(かがくのとも傑作集)

甲斐信枝／作

福音館書店 1993年 900円



たねのずかん とぶ・はじける・くっつく (みるずかん・かんじるずかん)

高森登志夫／絵

古矢一穂／文

福音館書店 1990年 1300円

植物が子孫を残すために取る方法は？ 風に運ばれるタネ、人や動物にくっ付いて運ばれるタネ、さやの中から飛び出すタネ、水に流されて運ばれるタネ、鳥が運ぶタネ…。122種のタネとその植物の絵が丁寧に描かれています。



畑の土から芽がでたよ (土にねむるたねのふしぎ 1)

松尾洋子／写真

多田多恵子／監修

アリス館 2010年 2000円 ★シリーズ全2巻

農家の人からもらった畑の土をプランターに入れて観察。さてさて、どんな芽が出てくるでしょうか。出てきた芽に「にっこりおさる」「みどりのバナナ」「くつした」などユニークな名前を付け、生長の様子を観察した写真図鑑です。

(参考図書)

『林の土から芽がでたよ』(土にねむるたねのふしぎ 2)

松尾洋子／写真 多田多恵子／監修

アリス館 2010年 2000円



ここにも、こけが… (たくさんのふしぎ傑作集)

越智典子／文

伊沢正名／写真

福音館書店 2010年 1300円

こけの世界にズームアップで迫り、見過ごしていたこけの美しさに気付かせてくれます。およそ4億2千万年前の地球に、こけの祖先はあらわれました。それから現在までの長い間に、からだの大きさもつくりもそれほど変わっていません。たくさんの謎を秘めたこけの、不思議な生態がわかる写真絵本です。

(参考図書)

『ほら、きのこが…』(たくさんのふしぎ傑作集)

越智典子／文 伊沢正名／写真

福音館書店 2000年 1300円



アサガオ観察ブック

小田英智／構成・文
松山史郎／写真

偕成社 2009年 1200円

アサガオの発芽から種になるまでの生長過程を写真で記録し、詳細に説明しています。アサガオは奈良時代に中国から薬として渡来し、薄青色一色の花でした。時代が下がって園芸植物として愛好者が増え、多くの品種が生まれた歴史も伝えています。

※『アサガオ観察事典』（2003年刊の普及版）
（参考図書）

『チューリップ観察事典』（自然の観察事典 27）

小田英智／構成・文 松山史郎／写真

偕成社 2003年 2400円

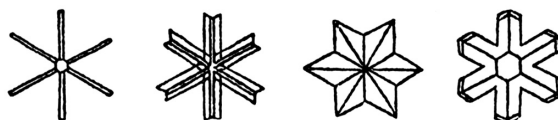


イネの一生（科学のアルバム）

守矢登／著

あかね書房 2005年 新装版 1500円

イネの一生を豊富な写真と解説でたどる、「科学のアルバム」シリーズの一冊。田のある風景には、必ず人々の暮らしがあります。稲作の伝播や稲作と自然との関係などにもふれて、稲作を多面的にとらえています。



『訓蒙窮理図解』 第六章「雹雪露霜氷の事」より



シリーズ「科学のアルバム」

(植物編、動物・鳥編、天文・地学編、虫編、既刊73冊) の紹介

1970年、地球上の様々な生物や地球や宇宙の姿をカメラの眼で捉え、解説を加えた写真図鑑のシリーズとして創刊されました。1988年、100巻で完結。2005年、リニューアルして全73巻の新装版として再刊行しています。

植物編 全18巻

『アサガオ たねからたねまで』
『ヒマワリのかんざつ』
『高山植物の一年』
『ヘチマのかんざつ』
『キノコの世界』
『コケの世界』
『紅葉のふしぎ』
『ドングリ』
『植物は動いている』
『食虫植物のひみつ』
『イネの一生』
『サクラの一年』
『サボテンのふしぎ』
『たねのゆくえ』
『ジャガイモ』
『水草のひみつ』
『ムギの一生』
『花の色のふしぎ』

天文・地学編 全16巻

『月をみよう』
『星の一生』
『太陽のふしぎ』
『惑星をみよう』
『雪の一生』
『水 めぐる水のひみつ』
『氷の世界』
『砂漠の世界』
『雲と天気』
『きょうりゅう』
『星座をさがそう』
『しょうにゅうどう探検』
『火山は生きている』
『塩 海からきた宝石』
『鉱物 地底からのたより』
『流れ星・隕石』

動物・鳥編 全20巻

『カエルのたんじょう』
『ツバメのくらし』
『たまごのひみつ』
『モリアオガエル』
『シカのくらし』
『ヘビとトカゲ』
『森のキタキツネ』
『コウモリ』
『カメのくらし』
『ヤマメのくらし』
『カニのくらし』
『サンゴ礁の世界』
『カタツムリ』
『フクロウ』
『カラスのくらし』
『キツツキの森』
『サケのたんじょう』
『ハヤブサの四季』
『メダカのくらし』
『ヤドカリ』

虫編 全19巻

『モンシロチョウ』
『カブトムシ』
『セミの一生』
『ミツバチのふしぎ』
『クモのひみつ』
『鳴く虫の世界』
『テントウムシ』
『ホタル 光のひみつ』
『昆虫のふしぎ 色と形のひみつ』
『水生昆虫のひみつ』
『アリの世界』
『アカトンボの一生』
『アゲハチョウ』
『トノサマバッタ』
『カマキリのかんざつ』
『カイコ まゆからまゆまで』
『クワガタムシ』
『高山チョウのくらし』
『ギフチョウ』



どんぐりの穴のひみつ (わたしの研究 11)

高柳芳恵／文
つだかつみ／絵

偕成社 2006年 1200円

どんぐりの小さい穴からイモ虫が顔を出したのをきっかけに、どんぐり穴の犯人探しがはじまります。どんぐり虫の成虫の名前探しで難航。穴の大きさや開けている場所も様々だったり、穴の数と出てきたイモ虫の数が合わなかったり…。9年間のどんぐり穴の観察記録をまとめた。

(参考図書)
『日本どんぐり大図鑑』
徳永桂子／著 北岡明彦／監修・解説
偕成社 2004年 4800円

ブナの森は緑のダム 森林の研究

太田威／文・写真

あかね書房 1988年 1200円

※現在品切れ

著者はブナの森の四季やそこに息づく様々な生き物を撮り続け、森を多面的に研究しています。人は古代より森と共生して生きてきました。豊かな森を知ること、近年の森と人との関わり方に警鐘を鳴らしています。



公共図書館か
学校図書館で
ごらんください。



ジャガイモの花と実 (オリジナル入門シリーズ 5)

板倉聖宣／著
藤森知子／絵
仮説社 2009年 1600円

植物は花が咲くと、そのほとんどは実がなり種ができます。ジャガイモの花を見たことはあっても、実を見ることはなかなかありません。「ジャガイモの花と実という、ふだんは全く問題にもされないものを一つの手がかりにして、自然のしくみの面白さと、それを上手に利用してきた人間の知恵—科学のすばらしさを描きだそうとした」著者の熱い思いが伝わる科学読物の傑作です。